

K240.5

1

中等被服一

文部省

文部省図書印行

[前] ¥ .50

(112)

昭和二十一年三月十三日 印刷 同日録刻印刷
昭和二十一年三月十七日 發行 同日録刻發行
〔昭和二十一年三月十七日 文部省發案済〕

著作權所有 著作者 文 部 省
發行者 東京縣神田區若木町三番地
中等學校教科書株式會社
代表者 邑井 寅 雄
東京市品川区品川一丁目十二番地
印刷者 大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉 郎

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Mar. 13, 1946)

目 録

一 日常生活と被服	一
二 日常被服の手入れ	三
しわ伸ばし	三
部分洗ひ	三
まる洗ひ	四
繕ひ	六
附屬品の手入れ	七
三 手縫ひとミシン縫ひ	八
手縫ひ	八
ミシン縫ひ	九
〔増〕ミシンの附屬具	十四

一 日常生活と被服

私どもは、うつばに自分の被服生活をいとなむばかりでなく、主婦となり母となつて、家族の被服一切の世話を全うする責務があります。昔からこれを女の手わざの第一とし、女子教養の大切なものに數へて來ました。今でこそ、裁ち縫ふことを主とし、絲を紡ぎ機を織るなどの勞ははぶかれましたが、上古の手末の調は専ら女子の奉仕でしたし、家々の女子が布帛にするまでの一切の仕事を受け持つたのは、そんなに遠い昔のことではありません。わが國文化のすぐれた一面であるゆたかなすがすがしい被服生活は、かうしたまめやかな女子の力にまつところが多かつたのです。私どもはこの傳統を受け継ぎ、時勢に應じて、いよくこれを向上發展させなければなりません。

被服生活の向上は、決して華美な衣裳をたくさんもつことをいふのではなく、寧ろ被服の本旨に従ひ用に應じて、むだをはぶき、品よく、くも廻しよく着て行くのが、ほんたうの意味の向上です。

被服の本旨は、先づ、健康を保つことにあります。即ち、外界からの影響に對してからだを護ること、例へば體溫を調節し、特に寒い季節に保温の役をし、或は外傷を防ぐなどが、それです。わが國の永い傳統をもつ被服は、よく氣候・風土にかなひ、保健・衛生に適するやうに出来てゐます。

次には容儀を整へることにあります。被服は着る人の心持を左右し、接する人にさまざまの印象を與へ、ひいては國民の品位にも關するものです。昔から、身だしなみよく容儀を整へることは、女子として、だいなことでした。

容儀をつくる心は、裝飾に走る心と紙一重といふことができます。被

服には装飾の意味もありますが、いつの時代にあつても、装飾に過ぎることは、健全な被服生活とはいへません。

被服生活を經濟の立場から考へると、主として消費の側であります。しかし、たくましい生産は、健全な消費と相まななければなりませんから、健全な被服生活は、同時に生産に役立つ意味ももつてゐるのです。即ち、敬虔な感謝の心を以つて被服や衣料を取り扱い、注意深い手入れ・保存によつてできるだけ永もちさせ、且つ、なるべく新調を見合はせなければなりません。

まして、今わが國は、大きな新しい時代を前にして、はげしい努力を續け、苦難に堪へてゐるのです。私どもが繊維・布帛などを費すことが少ければ少いほど、それが直ちに生産の確保に役立ちます。私どもは古人の傳統を今に生かしながら、被服の本旨に従つて正しい生活を修練し、向上充實の道を見出さなければなりません。さうしてそれを世界に對して、形で示さなければなりません。

被服生活の修練は、實際の場合に當つてみて、ほんたうのことがわかるものです。それで、自分のものはもちろん、進んで家族のものの世話をしてあげて、日常生活の中から學び、そこに新しい工夫を生み出すやうにしたいものです。このやうなまめやかな日常生活には、おのづから明かるい喜びが湧き、家内にゆかしいやはらさがたゞよふのであります。

◇、私どもの祖先は、どんな服裝をしてゐたか、それに就いて知つてゐることをまとめてごらん下さい。

◇ 通學服・運動服・下着・前掛などの被服に就いて、それらの役目を考へなさい。

◇ 「子供は風の子」

「着れば着るほど寒い」

このことわざの意味に就いて考へてごらん下さい。

二 日常被服の手入れ

被服は、用ひてゐるうちに、しわになつたり、よごれたり、いたんだりして、その役目が果せなくなるものです。それで、始終注意してゐて、それ／＼手まめに手入れを加へることが必要です。しかし、その方法を誤ると、二度と役に立たないものにしてしまふことがありますから、正しい方法を會得しなければなりません。

◇ ほこりは、なぜ拂はなければなりませんか。

◇ 雨にぬれた被服は、どう始末しますか。

しわ伸し

しわになつた被服は、次の仕方で直します。

木綿物・スフ・麻・毛織類は軽く霧を吹くか、湿つた布を當てるかして、こてをかけます。或は濕りを與へて、しわを伸して熨みつけ、生乾きのうちに衣紋掛に掛けて乾かします。

部分洗ひ

袴・袖口などのよごれは、皮膚から出る脂肪や汗などが、ほこりと一しよに附いてゐるのですから、揮發油のやうな脂肪を溶かす揮發性の溶剤があれば、そこだけ部分洗ひをすることができます。

先づ、手拭・さらしなどの柔かな布を四つに折り、その上に洗はうとする物のよごれた部分を下にして置きます。それから、揮發油に浸した真綿か布かで軽くおさへてよごれを溶かし、次に下敷布でその部分を巻き、おしつけてこれを吸ひ取らせます。一度で落ちなければ、この方法をくり返します。

又よごれた部分を、これらの液の中でつまみ洗ひすることもあります。

どちらも、その部分にさかひ目がつかないやう、まはりを軽くぼかすやうにします。こすつてはいけません。

揮発油が無い時は、石鹼或はあくなどを用ひ、後でよくすすいでおきます。

さる洗ひ

- ◇ まる洗ひのできる平常着には、どんなものがありますか。
- ◇ まる洗ひに先立ち、洗濯物に就いて、どんな用意が必要ですか。
- ◇ 又、附屬物に就いては、どんな注意がいりますか。

一 木綿物

(一) 下洗ひ

冷水又は微温湯に暫くつけて置き、軽くもんで下洗ひをします。

- ◇ 下洗ひをするのは何のためですか。

(二) 本洗ひ

微温湯千分に洗濯ソーダー一二分及び石鹼四五分の割合の液に浸し(液量は洗濯物の目方の十二倍ぐらゐ)先づ、よこれのひどい部分から始めて、順序よく全體を洗ひ、裏も同様に洗ひます。洗ひ方は、平板に擲^おけて刷毛洗ひにするのが一番無難ですが、物によつては、手もみにし、或は洗濯板に載せて、つかみ洗ひのやうな操作をすることもできます。

- ◇ 色物を洗濯するのに、一箇所をほげしくもみ洗ひをすると、どうなりがちですか。

(三) すいぎ

よこれが落ちたら、清水でよくすすぎます。

(四) 仕上げ

肌着のやうな物は糊附けの必要はありませんが、一般には固くしぼつて糊附けします。

白又は白がちの物には生麩糊を、色物には生麩糊か布海苔液を用ひます。生麩糊は、生麩を水で溶き、軽く煮て作り、温湯千分に生麩十五―二十分の割合が適當です。布海苔液は、水千分に布海苔五―六分の割合に煮て作つたものを、布ごしして用ひます。糊液の量は、大體品物の目方の四倍あれば足りります。

糊附けするには、なるべく洗濯物の裏側から糊液に浸し、全體にしみ込ませたら、平均にしぼつて擲^おけ、しわを伸ばし、形を整へて乾かします。乾いたら、それらの用途・形に應じて疊みつけ、或はアイロンで仕上げるのです。

- ◇ 裏側から糊液に浸すのは、なぜでせうか。

疊みつけ仕上げは、霧を吹いて湿りを與へ、布の幅・丈を適當に引き伸ばし、形を整へて疊みつけます。疊んだものを、ござなどの間に入れて踏みつけると、一層効果があります。それから再び擲^おけて干し上げます。

- ◇ 湿りを與へるのは、なぜでせうか。

アイロン仕上げは、霧を吹いて一様に湿りを與へてから、アイロンを縫ひ目に沿つてかけ始め、全體に及すのです。

二 スフ織物

スフはぬれると伸びやすく、強くこすつて洗へば、けば立ちやすいものです。

冷水又は微温湯につけて下洗ひをし、木綿物の場合と同じやうな洗

濯液に入れ、薄地物は、つかみ洗ひをし、スフナージその他のやゝ厚地の物は、おしつけ洗ひ、或は軽く刷毛洗ひをします。

衿・袖口・裾などの筋よこれは、平板の止に伸し、十分石鹼液を含ませて、なめらかな縁の物でしごき洗ひをします。よこれが落ちたら、清水ですすぎ、平板の上に畳み上げておししぼりにし、しわを伸し、形を整へて乾かします。糊附けを要するものは、木綿物の場合と同じ要領でし、乾いた後の仕上げも、木綿物にならつてします。

三 麻織物

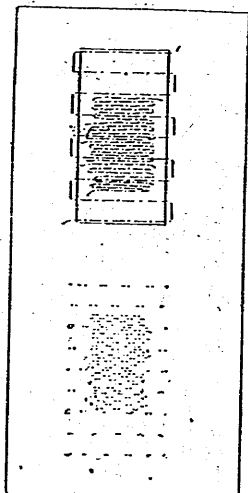
木綿物の場合と同じ洗濯液を用ひ、はげしくもみ洗ふことを避け、刷毛洗ひにします。すいだら、固くしぼらず、水を多しきるか振るる程度にし、乾いたら畳みつけ仕上げをします。

◇ 次の表の空欄に、洗濯用水及び洗濯剤の容量・目方を測つて書き入れなさい。

容器	用水	洗 濯 剤		
茶さじ				
コップ				
あき瓶				

繕ひ

布が弱つて薄くなつた物は、裏から共布を當てて、色紙縫ぎにします。特にいたみのはげしい所は、密にさします。且つ、糸がつれないやうにし、糸留めはしません。



夏のうは着、下着・作業前掛・敷布など單の物は、當て布の周囲がほつれないやうに始末します。

◇ 平常着はどこがよくほころびますか。又どこがよくいたみますか。被服のいたんだ箇所の繕ひばかりでなく、ほころびや、ボタンなどの取れたもの、取れかゝつたものも、常によく始末しておくべきです。附屬品の手入れ

靴は毎日ほこりを拂ひ、時々鞣墨を附けて磨くと、革の柔かさを保ち、水もしみないで永もちします。ぬれた靴は必ず日かげで乾かし、乾いてから手入れをします。

◇ 靴を磨く時は、どんな注意が必要ですか。鞣墨に就いてはどんな注意がいらいますか。

傘などは、使つた後、必ず乾かしてしまつておくやうにします。

◇ 雨傘・日傘の乾かし方・しまひ方にはどんな注意がいらいますか。

三 手縫ひとミシン縫ひ

◇ 皆さんの平常着には、手縫ひとミシン縫ひのどちらが、どんなに用ひられてゐますか。

◇ 手縫ひとミシン縫ひとは、糸がどう違いますか。

◇ 又、縫ひ目の構成は、どう違つてゐますか。

手縫ひは用具が簡單で、手軽にできますが、厚地の物には適しません。ミシン縫ひはよく練習すれば、早く縫へるし、仕あがりも丈夫ですが、縫ひ目が固くて、解きにくいから、何にでも、又どこにでも用ひられるものではありません。

どちらもよく練習して、その得失をわきまへ、布地や縫ふべき箇所に適當した縫ひ方を用ひなければなりません。殊に針仕事は、女子の是非とも心得なければならぬしなみです。

手縫ひ

手縫ひには、縫ひ方・くけ方、しつけのかけ方など、基礎的な技術がいろいろありますが、中でも、運針の巧拙は、被服の出来ばえや丈夫さに關するばかりでなく、縫ふ人の性格さへ、そこに現れるものです。

針仕事の時には、端坐するのが、修練上からいつても大切なことです。

◇ 使ひやすい縫ひ針の長さは、どのくらいですか。

◇ 布の地質と針の太さと糸の種類との關係に就いて考へなさい。

◇ 正しい針目、上手な縫ひ目とは、どんなのをいひますか。

◇ 使へなくなつた針は、どう始末してゐますか。

◇ 針仕事の後の針の不始末が思はぬけがのもととなつたり、残り火の不始末から大事をひき起した例に就いて、見聞きしたことはありますか。

◇ 針を杓にさしたり、糸を齒で切つたりする悪い習慣がついてはゐませんか。

ミシン縫ひ

一 ミシン

調べ帶

動力輪

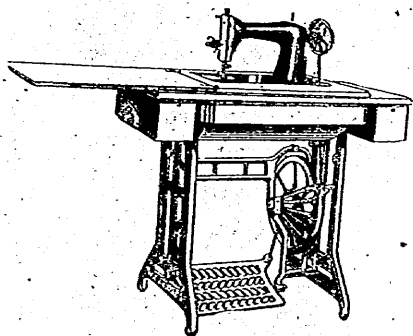
調べ帶外し

はづみ車

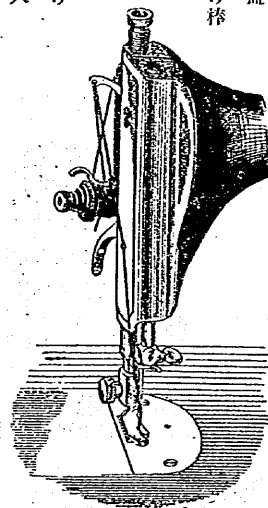
運轉止め

踏み板

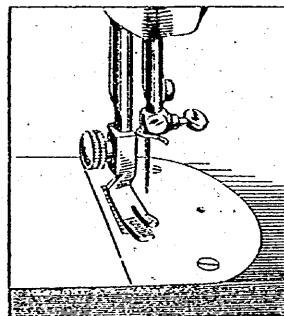
針目加減ねぢ



糸立て棒
面板
調子皿
糸掛け棒
針
てこ
糸道
糸掛け
針の穴



針止めねぢ
おさへ金
送り金
のど板
すべり板



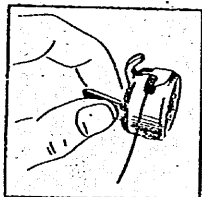
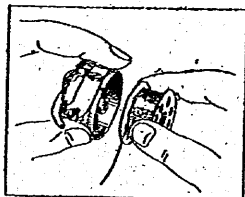
二 布と針と糸

布	針	糸
綿布・麻布の類	一四番	カタン糸 四〇―五〇番
セル・ネルの類	一一番	カタン糸六〇番 羽二重糸
薄地の類	九番	カタン糸 八〇―一〇〇番 羽二重糸

- ◇ 針の番號は何を表してゐますか。
- ◇ 針の形はどうなつてゐますか。
- ◇ カタン糸の番號は何を表してゐますか。
- ◇ カタン糸の小の巻きは、長さ何ほどですか。

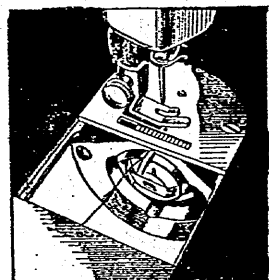
三 使ひ方

- (イ) 調べ帯の掛け方・外し方、運轉止めの廻し方
- (ロ) 踏み方 はずみ車はいつも手前へ廻るやうにし、逆轉させてはいけません。
- (ハ) 針の附け方 針の向きを間違へてさし入れたり、十分奥までさし入れなかつたりすると、糸が切れたり、針が折れたりします。

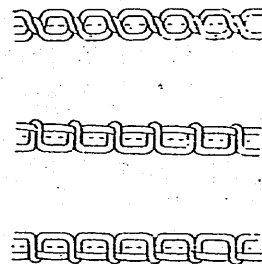


(ニ) 下糸の巻き方・入れ方

(ホ) 上糸の掛け方
(ヘ) 縫ひ方 上下の糸を右手で引き、布を送り、四、五針縫つてから、右手を離して續けて縫ひます。



縫ひ終りの糸は、必ず向かふへ少しばかり引き出して切ります。
使用後は調へ帯を外し、おさへ金をあろしておきます。



◇ 圖の三つの調子はどんな場合に出來ますか。

假縫ひをしないで、二枚の布を平に合はせて練習しなさい。
角の縫ひ方、曲線の縫ひ方を練習しなさい。

◇ 針目の大きさはどれくらいが適當でせうか。

◇ 針目の大小と糸の長さに就いて調べなさい。

四 取扱ひの注意

ミシンは精巧な機械ですから、だいじに取り扱ひ、人と機械と一つになつて動くことが大切です。それにはよく構造を研究し、決して無理をしないやうにしなければなりません。例へば、各部の調節ねちをどくわづかつ動かして調子を見ることがあります。

五 手入れ

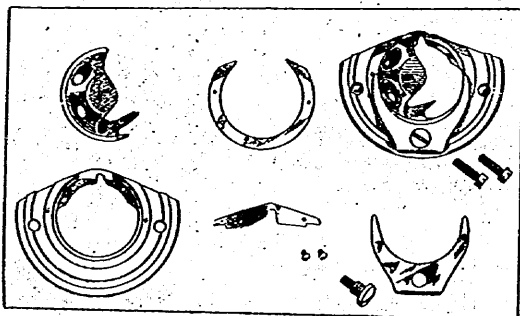
ミシンの外部はもちろん、時々内部までも分解して、手入れをします。

◇ ねち廻しを使ふ時には、どんな注意がいりますか。

(イ) 後の分解掃除

糸巻き入れの
はいつてゐる後
を取り外して分
解し、ほこりや
糸屑のないやう
乾いた布でよく
拭つてから、油
布でふきます。

◇ 梭の分解に
は、どんな注
意がいります
か。



- (ロ) 送り金とその下の掃除
- (ハ) 油さし 油は良質のものを選び、各軸受部その他摩擦部に一滴づつさします。
- ハ 起りやすい故障

(イ) 針目のとふ時 針の位置、上糸の掛け方及び糸と針と布とがそれぞれ適當であるかどうかを調べます。

(ロ) 糸が切れる時 上糸の掛け方、針の附け方、糸と針との釣合及び糸の強さを調べ、又ほこりがたまつてゐないかどうかを調べます。

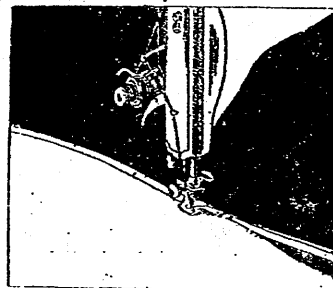
(ニ) 布を送らない時 針目加減ぬちの位置を調べ、又送り金の出方を調べます。

(三) 車が動かない時 梭に糸が挟まつてゐないかどうかを調べます。

〔増〕 ミシンの附屬具

附屬具は特に微妙なはたらきをもつてゐますから、細心の注意を要しますが、少し練習すると、重寶なものです。

一 糸附け具



文部省調査局刊行課寄贈

[中] ¥ .30

(112)

中等被服一

文部省